

栄誉をたたえて

町政功労者表彰



ふるさと栗山の発展に貢献

まちの発展に尽くされた方の功績をたたえる平成29年度町政功労者表彰式が11月1日、総合福祉センター「しやるる」で行われました。本年度の受賞者は3部門3人。椿原紀昭町長が表彰状を受賞者に手渡し、長年にわたる町への貢献に感謝しました。表彰者を代表して青山茂さんは「今日の栄誉もひとえに多くの方々のご理解とご指導のおかげです。この受賞を契機として微力ながらまちづくりに尽くしたいと思います」とあいさつしました。

～表彰者紹介～

自治功労者表彰
青山 茂さん



昭和54年より12年の長きわたり、町議会議員として町政の発展振興に貢献。今年3月に旭日単光章を受章

産業功労者表彰
桂 一照さん



20余年の長きにわたり、栗山土地改良区理事および理事長として本町の地域農業の振興、発展に貢献

教育功労者表彰
岡山典弘さん



32余年の長きにわたり、町スポーツ推進委員および委員長として本町の地域スポーツの普及推進に貢献

法務大臣 感謝状

長年の更生保護活動に敬意を表して



長年にわたり栗山更生保護女性会の会員並びに役員を務められた藤田敦子さんに、法務大臣から感謝状が贈られました。藤田さんは、昭和57年4月に入会以来、更生を支える立場で活動을続け平成15年から4年間は、会長として会の発展に貢献されたことから、本町で初受章となりました。

統計功労者 表彰

長年の統計調査業務に敬意を表して



長年にわたり農業基本調査や農林業センサス調査などの統計調査業務に従事されていた志摩隆さんに対し、北海道知事から感謝状が贈られ11月10日、役場応接室で椿原紀昭町長より伝達されました。志摩さんは昭和59年から統計調査業務に従事し、誠意ある対応で精度の高い調査結果の確保に努められました。

社会福祉貢献者表彰

社会福祉、障がい者福祉の向上に寄与



地域福祉活動に貢献されてきた方などを表彰する平成29年度社会福祉貢献者表彰式が11月5日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。町社会福祉協議会の橘一也会長から社会福祉および障がい者福祉の増進に寄与された4人と1団体に表彰状を、また、11人と2団体に

に感謝状が授与されました。

【社会福祉功労表彰】

岡本 財一さん
高野 勝義さん
中田恵美子さん
朝日4丁目町内会環境部
【ボランティア活動表彰】

【感謝状】

早坂 邦雄さん
田中ミツ子さん
斉藤 隆浩さん
吉田ハルエさん
中島 孝幸さん
砂田 正樹さん
中井 幸範さん
太田 欣仁さん
吉田 礼子さん
谷口 温松さん
関 紀子さん
そらち南農業協同組合
株式会社メリーワーク

雪のシーズン到来

除排雪作業にご理解とご協力を



- ◆**道路脇の雪遊びは危険!**
道路脇の雪山で、子どもがスキーやソリ遊びをするのは非常に危険です。見かけたら注意をお願いします。
- ◆**除雪車には近づかないように、子どもにも注意をお願いします。**
- ◆**道路周辺では**
道路沿いの看板やコンクリート管などは、撤去してください。低い塀や庭木などは、赤い布をつけた棒などで表示してください。
- ◆**路上駐車・車両放置はやめましょう**
路上駐車や放置車両があると除排雪作業が遅れ、地域全体に迷惑が掛かります。地域の皆さんの力で絶対にやめさせましょう。

- ◆**玄関先の雪処理**
除雪車が通った後は、玄関先に雪が残る場合があります。ご苦労をお掛けしますが、各家庭での処理にご協力ください。
- ◆**落雪にご注意を**
毎年、屋根からの落雪による事故が発生しています。特に、歩道に面している屋根は早めの雪下ろしや、雪止め処理をしましょう。
- ◆**排雪後、各家庭の雪を路上に出す人を見かけたら止めるように声をかけましょう。** 除排雪の効果が半減します。

【過去3年間の除排雪経費】

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度
町の人口（4月1日現在）	12,794 人	12,519 人	12,153 人
降雪量	370cm	392cm	444cm
除排雪経費（決算額）	113,454,404 円	98,317,248 円	129,066,990 円
町民 1 人当たりの除排雪経費	8,868 円／人	7,853 円／人	10,620 円／人
車両購入実績 （上記経費には含まれない）	除雪用ダンプトラック 32,238,000 円	除雪用ドーザー 15,606,000 円	凍結防止剤散布車両 395,636 円

※除排雪作業のお問い合わせは、各町内会長・自治会長を通してお願いします。

【問い合わせ】
町建設水道課総務管理グループ
☎ 75112

交通功労者表彰

長年の交通安全指導に敬意を表して

栗山地区交通安全協会の平成 29 年度交通功労者・優良運転者等表彰式が 10 月 24 日、カルチャープラザ「Eki」で行われました。同会を構成する 4 町（栗山・長沼・由仁・南幌町）から 14 人の功労者と優良運転者を表彰。本町からは、永田英隆さんと金谷雅人さんが北海道警察本部・北海道交通安全協会長連名表彰、石田武さんが北海道警察本部交通部



長・札幌方面交通安全協会会長連名表彰、久住八郎さんが北海道交通安全協会会長表彰を受けました。4 人は町交通安全指導員として、街頭指導などを行い、啓発活動に尽力。現在も後輩指導員への経験の伝達に力を注いでいます。



火災予防絵画優秀作品表彰

消防車の力強さのびのびと描く

南空知消防組合が主催した「火災予防絵画コンクール」で、今年度は栗山、角田、継立の 3 小学校から計 13 点の応募があり、次の 3 人が、それぞれ優秀賞に選ばれました。各校の校長室で行われた表彰伝達式では、南空知消防組合消防署の板東晴彦消防署長から、表彰状とトロフィーがそれぞれ手渡されました。

【受賞者コメント】



山崎 美里さん
（栗山小 1 年）

受賞はとてうれしいです。細かく描くことを頑張りました。



武田 結衣さん
（角田小 1 年）

賞をもらうことができてうれしいです。細かく描くのが難しかったです。



須郷 陽斗さん
（継立小 1 年）

優秀賞に選ばれてとてもうれしいです。はしごを描くのを頑張りました。

冬の暴力追放運動

「冬の暴力追放運動」は、暴力団の根絶により暴力のない明るく安全・安心な北海道の実現を目指し、道民運動として実施します。

実施期間

12月15日(金)～

平成30年1月14日(日)

道内の暴力団情勢

暴力団対策法の整備や暴力団排除活動により、暴力団構成員は年々減少傾向にあります。

一方で、暴力団の資金獲得方法は、社会や経済情勢の変化を巧みに利用するなど多様化し、企業・行政だけではなく個人をも標的とした資金獲得活動を活発化させようとしています。

3ない運動+1(プラスワン)

- ①暴力団を「利用しない」
- ②暴力団を「恐れない」
- ③暴力団に「お金を出さない」
- +暴力団と「交際しない」

被害に遭わないために

次のことを注意し、実際に見たり聞いたりした時は、最寄りの警察に通報しましょう。(局番なしの110)

◆身に覚えのない請求書・督促状は、相手方に確認せず家族に相談する

◆親族を装った電話による振り込め依頼は、まず家族に確認し、すぐにお金を振り込むことはしない

◆暴力の被害にあったり、見たり聞いたりしたとき、少年の非行を見たり聞いたりしたときは、勇気を持って警察に通報する

◆暴力団のたまり場などへの集合や暴走行為を見たり聞いたりしたときは、警察に通報する

【問い合わせ】

町住民生活課
生活安全グループ
☎7510



記憶から記録へ

そして保存

天皇陛下の退位日を平成31(2019)年3月31日とし、皇太子さまが翌4月1日に新天皇に即位する案と、4月30日に退位し、翌5月1日に即位する2つの案が検討され、皇室会議の意見を踏まえ最終決定する方針であることが報じられています。平成は、再来年の3月末日か4月末日には幕を閉じるようです。

町史や平成史ダイジェスト版の歴史の具体的記述は、明治、大正、昭和、平成です。その記録のまとめを見ますと、明治20年以降、大正の15年間、昭和戦前の20年、昭和戦後の44年、そして平成は20年までとなっています。

年号が変わることを一つの契機として、これらの変化記録を保存・整理・展示する施設に、開拓記念館、図書館、角田・継立図書館があります。地域の資料は、その地域で保存、活用されます。

や図書館などの施設は、ダムのようなもので、このダムに水すなわち資料を貯めるには町民の皆さんの協力がが必要です。身近に古い資料がございましたら、町史編さん室までお持ちいただければ幸いです。

町内には、かつて11の小学校と5つの中学校がありました。身近な学校の記憶は鮮明です。その記憶を保存するのも貴重です。(下部)

【問い合わせ】

栗山町史編さん室
☎7820



貴重な資料となる学校記念誌や部落史

地域間連携でより良いまちに!!

栗山青年会議所第49代理事長の中井浩輝です。

私たちが住むこの地域も含め、少子高齢化などにより人口は減少しています。平成52年には全国1800市区町村の約半分の896市区町村の存続が難しくなるとの報道は衝撃的なものでした。人口1万人未満の523市区町村は消滅する可能性が高いとされる統計もあり、南々空知の4町(栗山・由仁・長沼・南幌町)全てが消滅可能性自治体に当てはまります。

私たちは、この時代を担う青年経済人として、この現実を誰が受け止め、どのように社会と向き合っていくべきかを考えながら事業を展開してきました。

この地域には、歴史や自然食、田園景観といった豊富な資源が存在しますが、それを生かすことができる唯一の資源は「人」です。私たちが、地域に潜在する資源を掘り起こし、住民にこの地域の魅力を再認識してもらえれば、まちの垣根を

越えた地域間連携が強まり、地域発展につながっていくはずで。

今年度は、南々空知の広域連携を図りながら各種事業を行い、国内外から選好される魅力ある地域づくりを進めるための一歩を踏み出すことができました。これからも住民の皆さんとともに地域の諸問題と向き合い、当事者意識を持つことでより良い地域が必ず創られると確信しています。

私たちは、微力ながらこの地域に住む全ての人を喜びや夢・希望で満ち溢れさせ、より活性的な未来へとつなげていけるように地域の課題と真摯に向き合い、高いビジョンを持ち具体的政策を打ち出して運動していきたいと思います。1年間、本当にありがとうございました。



自分の強みを生かして

地域おこし協力隊の五十嵐です。私は現在、栗山町青年団体協議会(以下、「栗青協」)に所属しています。栗青協は、町内に在住・在勤している若者の集まりです。

先月、雨煙別小学校コカ・コーラ環境ハウスで町内の若者向けに「KURIYAMA QUEST」という、チームでさまざまなミッションをクリアし、最後はバーベキューをして交流するイベントを開催しました。栗青協会員として主催者側で参加し、イベントの案を出すところから当日の運営まで全てに関わりました。



私は印刷物作成の経験があることから、主にチラシ作成を担当。イベントを一から作る大変さを知り、どうしたら町内の若

者が来てくれるのかと考え、私自身、学ぶことが多かったイベントでした。

栗青協には、さまざまな職種の方が所属しているので、仕事で培った知識や技術を他の会員同士でアドバイスし合いながら、イベントづくりを行っています。自分の強みを発揮できるところが、この会に所属してうれしかったことの1つです。

次の栗青協イベントは、「出前サント事業」という親御さんからお子さんに渡すプレゼントを預かり、私たちがサントに扮し、クリスマスイブの夜にプレゼントを届けに行く事業です。

現在、地域おこし協力隊として、会員から聞いたイグリーブくりなど冬のイベントに関するアイデアや、若者目線で町の資源を生かしたいという思いを参考に、まちのPR動画を作るべく、準備をしています。町民の皆さんにご協力をお願いします。その際にはよろしく願います!